

主任監督員

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
-------	------	-------------------

11. 基礎工②（場所打ち杭工）

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			備考
				/	/	/	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	試験杭施工を実施していることが確認できる。	施工時	設計図書に示す工事目的物の基礎杭の一部として使用できるよう最初の一本を試験杭として施工していることが確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	場所打ち杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。	施工時	杭長決定の管理方法等を定め施工計画書に記載し、施工にあたり施工記録を整備及び保管していることが確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
掘削工	掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液濃度並びに比重要が、設計図書を満足していることが確認できる。(リバース工法、アーチドリル工法、ダウサンザホールハシマー工法、大口径ボーリングマシン工法が対象)	施工時	掘削中には孔壁の崩壊を生じないように、孔内水位を外水位より低下させていないことが確認できる。(共3-56)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(参考)孔内水位を事前に確認し、安定液位を常に2m以上に保つ。
	安定液濃度及び比重の状況について管理していることが確認できる。(共3-56)	施工時	安定液濃度及び比重の状況について管理していることが確認できる。(共3-56)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(参考)マッドハーフス、ファンネル粘土計、濾過試験器、pHメーターによる計測管理
	水平度及び鉛直度等が設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	常に鉛直を保持し、所定の深度まで確実に掘削していることが確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2方向からトラシットもしくは下げ振り等で確認する。
	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。	施工時	場所打杭工の施工にあたり、設計図書に示した支持地盤に達したこと、掘削深さ、掘削土砂、地質状況及びサンドブルなどにより確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
スライム処理工	スライムの除去を確実に行っていることが確認できる。	施工時	コンクリート打込みに先立ち孔底沈殿物(スライム)を除去していることが確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員						
11. 基礎工②（場所打ち杭工）											
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考				
コンクリート打設	鉄筋かご組み立て	施工時	鉄筋かごには、設計図書に示されたかごぶりが確保できるように、スペーサーを同一深さ位置に4ヶ所以上、深さ方向3m間隔程度で取付けていることが確認できる。（共3-55）		<input type="checkbox"/>						
	鉄筋かご組み立て込み建て込み	施工時	鉄筋かごの継手は重ね継手とし、これにより難易度打設中は、設計図書に関することが確認できる。（共3-55）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう十分堅固に組み立てることが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	場所打杭工のコンクリート打込みにあたっては、トレミー管を用いたプランジャーワー式によることとし、打込み量及び打込み高を常に計測していることが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	連續してコンクリートを打込み、レイタシス部分を除いて品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込んでいることが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	オールケーゼンクリング工法の施工におけるケーゼンクリートの引抜きあたり、鉄筋かごの共上りを起こさないようにするために、引抜き最終時を除き、ケーゼンクリートの下端をコンクリートの上面から2m以上コンクリート内に挿入していることが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	コンクリートの受け入れ検査は、適切に行われる規格値を満足していることが確認できる。（公示-195）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	トレンチ管下端とコンクリート立上り高の関係をトレミー管の位置、コンクリート打込み数量より検討し、トレミー管をコンクリート内に打込み開始時を除き、2m以上いれていっていることが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						
		施工時	杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないよう施工しているのが確認できる。（共3-56）		<input type="checkbox"/>						

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

12. 基礎工③ (深基礎)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				/□	/□	/□	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
掘削工	孔内の排水を行っていることが確認できる。	施工時	常に孔内の排水を行っていることが確認できる。(共3-57)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。	施工時	ライナープレートの組み立てにあたっては、偏心と歪みを出来るだけ小さくするよう施工していることが確認できる。(共3-58)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
鉄筋組み立て	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。	施工時	孔底が設計図書に示す支持地盤に達したことを、掘削深度、掘削土砂、地質柱状図などにより確認できる。(共3-57)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	配筋、スペーサーの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足している。	施工時	鉄筋を組立てる場合には、曲がりやよじれが生じないように、土留材に固定していることが確認できる。(共3-57)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			鉄筋かごの継手は重ね継ぎ手となっていることなどが確認できる。(共3-55)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			鉄筋かごの組立てにあたり、コンクリート打込みの際には鉄筋が動かないよう、堅固なものとなっていることが確認できる。(共3-56)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

12. 基礎工③（深基礎）

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄				備考
				□	□	□	□	
コンクリート 打設	配筋、スペーサーの配置及び コンクリートの打設等が、 設計図書の仕様を満足して いることが確認できる。	施工時	打込み量及び打込み高を常に計測している ことが確認できる。(共3-57)	□	□	□	□	□
	コンクリートの受け入れ時に、必要な試験を実施してお り、温度、スランプ、空気量 等の測定結果が確認できる。	施工時	コンクリートの受け入れ検査は、適切に行 われ規格値を満足していることが確認でき る。(コ示-195)	□	□	□	□	□
	コンクリート打設前に打ち 継ぎ目の処理を適切に行つ ていることが確認できる。	施工時	硬化したコンクリートの表面のレイタンス、緩んだ骨 材粒、品質の悪いコタリート、雑物などを取り除き 吸水させていることが確認できる。(共3-59)	□	□	□	□	□
裏込注入工	裏込注入材の配合は設 計図書を満足している ことが確認できる。	施工時	裏込注入材の配合は設計図書を満足してい ることが確認できる。(自明)	□	□	□	□	□
	裏込注入材注入の圧力が 施工記録により確認 できる。	施工時	グラウトの注入方法には、施工記録を整備保管してい るこ とが確認できる。(共3-58)	□	□	□	□	□
	裏込注入材注入の圧力が 施工記録により確認 できる。	施工時	裏込注入圧力は、低圧(0.1N/mm ² 程度)とするが、 これにより難い場合は、施工に先立つて監督員の承諾 を得ていることが確認できる。(共3-58)	□	□	□	□	□
		施工時	土留め材と地山との間に生じた空隙部には、全長にわたって裏込注入を行っている ことが確認できる。(共3-58)	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

13. 地盤改良工

施工フロー	確認点イント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			備考
				/	/	/	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定を行っていることが確認できる。	施工前	搅拌及び注入する材料について配合試験と一軸圧縮試験を実施するものとし、目標強度が確認できる。(共3-111)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	使用材料が適切であることが確認できる。	施工時	使用材料が適切であることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
改良体造成工	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(共1-49)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	セメントミルクは比重、スラリー噴出量、セメント噴出量を、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。	施工時	セメントミルクは比重、スラリー噴出量を、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	施工箇所が均一に改良されれているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。	施工時	施工箇所が均一に改良されれているとともに、十分な強度及び支持力を確保している。(自明)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
改良体造成工 (薬液注入工)	技術的知識と経験を有する現場責任者を選任していることが確認できる。	施工時	事前に経歴書により監督員の承諾を得ていることが確認できる。(共3-111)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	着手前に、工法及び材料について確認ができる。	施工時	着手前に、下記の確認ができる。 (1)工法関係 ①注入圧 ②注入速度 ③注入順序 ④ステップ長 (2)材料関係 ①材料(購入、流通経路等を含む) ②ゲルタイム ③配合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>

施工状況確認シート							主任監督員
工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月			
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄		備考
			/ □	/ □	/ □	/ □	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)				
	架設準備として下部工の検測を行っていることが確認できる。	施工前	下部工の橋座高及び支承間距離の検測を行い、その結果を監督員に提示していることが確認できる。(共10-44)	□	□	□	□ / □ / □
	支保工設置や架設設備等の支持地盤の地耐力が確認できる。	施工前	上部工の荷重に対しクレーン架設又は支保工を設置する地盤の地耐力を確認していることが確認できる。(自明)	□	□	□	□
	現場製作のコンクリート打設計画書を作成していることが確認できる。	施工前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。(共1-57)	□	□	□	□
	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。	打設前	JISマーク表示されたレディーミックスコンクリートを用いる場合は、工場が発行するレディーミックスコンクリート配合計画書及びレディーミックスコンクリート納入書を整備及び保管していることが確認できる。(共1-49)	□	□	□	□
	アレキヤストセグメント	受け入れ時	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表について監督員の確認を得ていることが確認できる。(共1-52)	□	□	□	□
	コンクリート材(コングリート)	打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督員の確認を得ていることが確認できる。(共1-49)	□	□	□	□
	アレキヤストセグメント	打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(C L -)が許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下となっていることが確認できる。(共1-47・52)	□	□	□	□
	規格・寸法および製品の状態が良好であることが確認できる。	受け入れ時	プレキヤストセグメントの規格・寸法は設計図書のとおりであり、ひび割れ等が生じていないことが確認できる。(自明)	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員			
施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント	
支承工	脊座面の処理が適切であることがある。	施工時	脊座面はチッピングを行い、浮き骨材やゴミなどを取り除いていることが確認できる。(共10-128)	<input type="checkbox"/>					
	脊座モルタルの材料、施工が適切であることを確認できる。	施工前	脊座モルタルは無収縮モルタルを使用し、確実に充填されることは確認できる。(道支-252)	<input type="checkbox"/>					
桁製作工 (鉄筋工)	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。	施工時	モルタル打設前に脊座面を湿润状態にして施工していることが確認できる。(道支-252)	<input type="checkbox"/>					
	鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	工事に使用した材料の品質を証明する、試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を受注者の責任において整備、保管していることが確認できる。(共2-3)	<input type="checkbox"/>					
桁製作工 (鉄筋工)	鉄筋の貯蔵が適切に行われていることが確認できる。	施工時	鉄筋その他の鋼材の引張強度及び曲げ強度が確認できる。	<input type="checkbox"/>					
	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていることが確認できる。(自明)	<input type="checkbox"/>					
施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する時には、既往の実績を調査し、現地において試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認している) (共1-61)	施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する時には、既往の実績を調査し、現地において試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認している) (共1-61)	<input type="checkbox"/>					
	鉄筋の重ね継手を行いう場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm 以上になまし鉄線で数ヶ所繋結していることが確認できる。(共1-63)	施工時	鉄筋の重ね継手を行いう場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm 以上になまし鉄線で数ヶ所繋結していることが確認できる。(共1-63)	<input type="checkbox"/>					
施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手を同一断面に集めていないことが確認できる。(共1-63)	施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手を同一断面に集めていることが確認できる。(共1-63)	<input type="checkbox"/>					

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員		
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考
14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)	鉄筋の組立及び加工 が、設計図書の仕様 を満足していること を確認できる。	施工時	契約図面に定めた位置に、鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう十分堅固に組み立てていることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	鉄筋の交点の要所を、直徑 0.8mm 以上のなまし鉄線、またはクリップで繋結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>				
		施工前	ガス圧接に従事する技術者が、該当する試験の技量を有することが、資格証明書等により確認できる。(共1-64)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	圧接工は、JIS Z 3881 (ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準) に定められた試験の種類のうち、その作業に該当する試験の技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。(共1-63)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	自動ガス圧接装置を取り扱う者は、JIS G 3112 (鉄筋コングリート用棒鋼) に規定する棒鋼を酸素・アセチレン炎により圧接する技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。(共1-64)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	コンクリート打設までにさび、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。	<input type="checkbox"/>				
		施工時	スペーサーを、構造物の側面について1 m ² あたり 2 個以上、構造物の底面について1 m ² あたり 4 個以上設置し、鉄筋の位置のずれが付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれが無いことが確認できる。(共1-62・63)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	スペーサーを、構造物の側面について1 m ² あたり 2 個以上、構造物の底面について1 m ² あたり 4 個以上設置し、鉄筋の所定のかぶりを確保していることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	スペーサーについてはコンクリートと同等以上の品質を有するものを使用していることが確認できる。(共1-62)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	シースの継手部をセメントペーストの漏れない構造で、コンクリート打設時も必要な強度を有し、また、継手箇所が少なくなるようにしていることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>				

主任監督員

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
-------	------	-------------

14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				施工時	施工前	下段 : コメント	
桁製作工 (シース・型枠)	シース・型枠の施工が適切に行われていることが確認できる。	施工時	桁の荷重を直接受けている部分の型枠の取りはずしにあたっては、プレストレス導入後に実施していることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	PC鋼材の設置、保護が適切に行われていることとが確認できる。	施工時	移動型枠については、型枠の移動が円滑に行われるための装置を設置していることが確認できる。(共3-26)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	フレーム桁のフレーム構造が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	PC鋼材またはシースがコンクリート打設時の振動、締固めによつて、その位置及び方向が移動しないよう組立てていることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	フレーム構造の受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	鋼桁のフレクション管理を、荷重計の示度及び鋼桁のたわみ量によって行ってい、ることが確認できる。(共10-46)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

表 10-5-1

項目	測定点	測定方法	単位	規格値
荷重計の示度	マノメーターの読み	t	± 5 %	
鋼桁のたわみ量	支間中央 レベル及びスケール	mm	- 1 ~ + 3 mm	
桁製作工 (フレーム)	コンクリート受入時に必要な試験を実施しておらず、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308 (レディーミックスコンクリート)により実施しているか、生産者等に検査のための試験を代行させることは確認できる。(共1-52)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
桁製作工 (コンクリート)				

主任監督員

施工状況確認シート

工事名 : _____ 年 月 日 ~ 年 月

14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段：日付・チェック欄		下段：コメント		備考
			試験項目	試験方法	□	□	□	□	
		打設前	レディミキストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われば、規格値を満足していることが確認できる。(管3-12～19)						
			試験基準・適用	小規模工種で1工種当りの終使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはデバイシングドットシート工場の品質証明書等のみとすることができる。	スランプ 5 cm 以上 8 cm 未満；新容器 ± 1.5 cm スランプ 2.5 cm 以下；新容器 ± 2.5 cm				
			空気量 (管3-18)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回／日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時	小規模工種で1工種当りの終使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。またはデバイシングドットシート工場の品質証明書等のみとすることができる。	土 1.5% (許容差)		
			塩化物總量規制 (管3-12)	コンクリートの耐久性向上 コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、一日につき二回以上(午前、午後)コンクリート打設前に荷物のヒヂーリングドットシート工場の品質証明書等のみとし、その後の試験を省略するが、午前の1回目は、午後の試験結果が強化物の総量の規制値の1/2以下の場合には、3回とする試験の判定は3回での実験である。(1回試験の測定回数は3回とする場合、骨材に海砂を使用する場合は「海砂の塩化物含有率試験方法」JIS C 0509-2013-503-2007による設計計算の規定により行う1回でもよい。	コンクリート工種で1工種当りの終使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。またはデバイシングドットシート工場の品質証明書等のみとし、その後の試験を省略するが、午前の1回目は、午後の試験結果が強化物の総量の規制値の1/2以下の場合には、3回とする試験の判定は3回での実験である。(1回試験の測定回数は3回とする場合、骨材に海砂を使用する場合は「海砂の塩化物含有率試験方法」JIS C 0509-2013-503-2007による設計計算の規定により行う1回でもよい。	原則 0.3 kg/m ³ 以下			
			単位水量測定 (管3-14)	レディミキストコンクリートの車両単位水槽測定要領(案)	示方組合の単位水量の上限値は、粗骨材的最大寸法が20～25mm の場合は175kg/m ³ 、n=40mm の場合は165kg/m ³ を基本とする	1) 测定した単位水量が、配合設計士15kg/m ³ を超過±20kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 测定した単位水槽量が、配合設計士±5kg/m ³ で設定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計士20kg/m ³ の指示値を越える場合は、生コンを打込みますに、持ち帰らせ、水槽台車の原因を調査し、生コン製造業者は改善を指示されなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計士±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計士15kg/m ³ 以内で設定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行なう。なお、管理職または指示値を超える場合は指示値による測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の大きい方で評価してよい。			
			コンクリート受入時 に必要な試験を実施 しており、温度、ス ラッシュ、空気量等の 測定結果が確認でき る。		示方組合の単位水量の上限値は100 m ³ /日以下の場合；2回／日(午前1回、午後1回) 示方組合の単位水量の上限値は175kg/m ³ 、n=40mm の場合は165kg/m ³ を基本とする	1) 1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること 2) 2回の測定結果のうち、配合設計との差が大きい方で評価してよい。 3) 1回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度の85%以上であること (1回の試験結果は、3層の供試体の試験値の平均値)			
	桁製作工 (コンクリート)		コンクリートの 圧縮強度試験 (管3-16)	JIS A 1108	・荷卸し時 1回／日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回。なお、デバイシングドットシート工場の品質証明書等のみとする。 (強度メントを使用する場合は、必要に応じて1回につき3個(σ7～3個、σ28～3個)を追加で採取する。 (σ3)を追加で採取する)	小規模工種で1工種当りの終使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験。またはデバイシングドットシート工場の品質証明書等のみとする。			
			【暑中コンクリート】		日平均気温が25°Cを超えることが予想されるときは、 暑中コンクリートとしての施工を行つており、また、 コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内で使用 していることが確認できる。(共1-66)				日平均気温とは、1時から24時間までの毎正時24回の測定値の平均をいう。 暑中コンクリートの適用に関する判断は受注者へのヒアリングにて確認を行う。
		打設前	【寒中コンクリート】		日平均気温が4°C以下になると予想されるときは、 ときは、寒中コンクリートとしての施工を行つてお ていることが確認できる。(共1-67)				
		打設前							

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
				施工時		練混せから打ち終わるまでの時間は、原則として外気温が25℃を超えないことが確認できる。 (共1-56)		<input type="checkbox"/>					
				施工時		コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超えて25℃以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。 (共1-56)		<input type="checkbox"/>	日平均気温が4度以下とし、25度を超えるときは暑中コンクリートとして取り扱う。				
				施工時		コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。 (共1-57)		<input type="checkbox"/>					
				施工時		シート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。 (共1-57)		<input type="checkbox"/>					
				施工前		【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるとときは、暑中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。 (共1-66)		<input type="checkbox"/>	日平均気温とは、1時から24時までの平均をいう。 暑中コンクリートの適用に関する判断は受注者へのヒアリングにて確認を行う。				
				施工前		【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるとときは、寒中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保つていることが確認できる。 (共1-67)		<input type="checkbox"/>					
				施工時		許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃を越える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。 (コ示-118)		<input type="checkbox"/>	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。				
				施工時		許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃以下の場合2.5時間以内となっていることが確認できる。 (コ示-118)		<input type="checkbox"/>	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。				
14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)													

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員		
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考
桁製作工 (コンクリート)	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締め固めた条件を満足している。	施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレーター間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。(コ示-122)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	コンクリートを2層以上に分け打設する場合、バイブレーターを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。(共1-58)	<input type="checkbox"/>				
PC鋼材の設置、保護が適切に行われている。	施工時	定着具の支圧面をPC鋼材と垂直になるよう取り付けていることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	施工時	ねじ部分は緊張完了までの期間、さびや損傷から保護していることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プレストレッシング時の中シクリートの圧縮強度が、プレストレスト直後にコンクリートに生じる最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できる。(共3-22)	施工時	プレストレッシング時の中シクリートの圧縮強度が、プレストレスト直後にコンクリートに生じる最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プレストレッシング時のコシクリートが、定着部付近のコシクリートがあることが確認できる。(共3-22)	施工時	プレストレッシング時の定着部付近のコシクリートが、定着により生じる支圧応力度に耐える強度以上であることが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理が、設計図書の仕様を満足している。	施工時	プレストレッシングに先立ち、引張試験のキヤリプレーションの試験に基づき、緊張管理計画を提出していることが確認できる。(共10-69)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	施工時	緊張管理計画書に従つてプレストレスを導入するよう管理していることが確認できる。(共10-69)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理が、設計図書の仕様を満足している。	施工時	プレストレッシングに先立ち、② PC鋼材のプレストレッシングの管理に用いる摩擦係数及びPC鋼材の見かけのヤング率を求める試験等調整及び試験を行っていることが確認できる。(共10-69)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員		
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考
		施工時	緊張管理計画書で示された荷重計の示度どと、PC鋼材の抜出し量の測定値どとの関係が許容範囲を超える場合は、直ちに監督員に連絡するところが確認できる。(共3-22)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	グラウトの施工は、ダクト内の残留水等がグラウトの品質に影響を及ぼさないことを確認し、 していることが確認できる。(共3-24)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	プレストレッシングの施工については、各 桁ともできるだけ同一強度の時期に行って いることが確認できる。(共3-23)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	緊張装置の使用については、PC鋼材の定着部 及びコンクリートに有害な影響を与えるものを 使用していないことが確認できる。(共3-23)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	PCグラウトの品質が適切であることが確 認できる。(共3-23)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	寒中ににおけるグラウトの施工については、グラ ウト温度は注入後少なくとも3日間、5℃以上に 保ち、凍結することのないように行っているこ とが確認できる。(共3-24)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	暑中ににおけるグラウトの施工については、グラ ウトの温度上昇、過早な硬化などがないよう しており、注入時のグラウトの温度は35℃を越 えていないことが確認できる。(共3-24)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	連続ケーブルの曲げ上げ頂部付近など、ダ クト内に空隙が生じないように空気孔を設 けていることが確認できる。(共3-24)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	主桁の仮置きを行う場合は、仮置きした主桁に 過大な応力が生じないように支持するととも に、横倒れ防止処置を行っていることが確認で きる。(共3-24)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	主桁の仮置き方法が確 適切であることが確 認できる。	<input type="checkbox"/>				

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
主任監督員		

14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			下段 : コメント			備考
				□	□	□	□	□	□	
桁製作工 (養生)	コンクリートの養生 が設計図書の仕様を 満足していることが 確認できる。	施工時	コンクリートの表面を荒らさないで作業できる 程度に硬化した後に、下表に示す期間を標準 に、露出面を十分な湿潤状態に保つていること が確認できる。 (共1-60)	<input type="checkbox"/> 日平均気温 1.5℃以上 1.0℃以上 5℃以上	<input type="checkbox"/> 普通ボルトランドセ メント 5日 7日 9日 12日	<input type="checkbox"/> 混合セメントB種 早強ボルトランドセ メント 3日 4日 5日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他のセメントや 工事の期間、施工場 所等によって養生 期間を定める場合 には、機造物の象 徴、位置、条件等を 考慮し、試験にて 確認した上で決定す る。
桁製作工 (脱型)	コンクリートの圧縮 強度を管理して、必 要な強度に達した後 に型枠及び支保工の 取り外しをどこが確認で きる。	施工時	【暑中コンクリート】 特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日 光・風雨を防ぐために必要な処置を行って いることが確認できる。 (コ示-174)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 散水、シート による覆い等 による適切な 処置が必要。
桁製作工 (脱型)	コンクリートの圧縮 強度を管理して、必 要な強度に達した後 に型枠及び支保工の 取り外しをどこが確認で きる。	脱型時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気に長時間さら られることが多いように打設後直ちにシート等で養 生していることが確認できる。 (コ示-165)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 打込後ただちに シートその他適切 な材料で表面を覆 い、特に風を防ぐ ことが重要。
桁製作工 (脱型)	コンクリートの圧縮 強度を管理して、必 要な強度に達した後 に型枠及び支保工の 取り外しをどこが確認で きる。	脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受 けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取り外 していくことが確認できる。 (共1-65)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> コンクリート強度の 測定は、型枠内に打 ち込んだコンクリー トと同じ状態で養生 した供試体の圧縮強 度による。
プレキヤット セグメント 主桁組立工	プレキヤット供試体が、当該現場で採取した供試体と同一品 であることが確認できる。 (共1-65)	脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試 体が、当該現場で採取した供試体と同一品 であることが確認できる。 (共1-65)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
桁製作工 (脱型)	プレキヤットプロック の損傷対策が適切であ ることが確認できる。 (共3-24)	施工前	プロック取卸しに付けては、特にプロック 接合面の損傷に対して十分な保護をしてい ることが確認できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :				工期 :				年 月 日 ~ 年 月
14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)								
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : メント	
			プレキヤストブロックの接合に用いる接着剤の使用にあたり材質がエポキシ樹脂系接着剤で強度、耐久性及び水密性がブロック同等以上で、かつ、表3-2-3 に示す条件を満足するものを使用していることが確認できる。(共3-24)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プレキヤストブロックの接合に用いる接着剤は適切である。 プレキヤストセグメント主桁組立工			表 3-2-3 エポキシ樹脂系接着剤の品質規格の標準					
			品質項目	単位	品質規格	試験温度	養生条件	
施工時	未硬化の接着剤	—	有害と認められる異物の混入がないこと 材料分離が生じていないこと	春秋用 23±2°C	春秋用 23±2°C 夏用 30±2°C 冬用 10±2°C 10±2°C 0.3以上 1.1~1.7 12.5以上 50.0以上 12.5以上 6.0以上			
	粘度	MPa・s	$1 \times 10^4 \sim 10 \times 10^4$					
	可使用時間	時間	2以上					
	だれ最小厚さ	mm	0.3以上					
	密度	g/cm ³	1.1~1.7					
	引張強さ	N/mm ²	12.5以上					
圧縮強さ	N/mm ²	50.0以上						
引張せん断強さ	N/mm ²	12.5以上						
接着強さ	N/mm ²	6.0以上						
施工時			エポキシ樹脂系接着剤を使用する場合は、室内で密封し、製造後6カ月以上経過したものは使用しないことが確認できる。(共3-24)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			接着剤の試験方法は「コンクリート標準示方書・JISCE-H 101-2013 ブレキヤストコングリート用樹脂系接着剤(橋げた用) 品質規格(案)」により行っていることが確認できる。(共3-24)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
施工時			プレキヤストブロックの接合面は、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、レイタシス、ごみ、油等を取り除いていることが確認できる。(共3-25)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月
主任監督員	

14. コンクリート橋上部工 (PC・RC)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄				備考
				下段 : コメント	□	□	□	
プレキヤストセグメント主桁組立工	プレキヤストブロックの接合が適切であることが確認できる。	施工時	プレキヤストブロックの接合にあたつて、設計図書に示す品質が得られるよう施工していることが確認できる。(共3-25)		□	□	□	□
	PCグラウトの注入時期が適切であることが確認できる。	施工時	プレキヤストブロックを接合する場合に、ブロックの位置、形状及びダクトが一致するようにブロックを設置しており、プレストレスシングル中に、くい違いやねじれが生じないようにしていることが確認できる。(共3-25)		□	□	□	□
	架設方法は適切であることが確認できる。	施工時	接着剤の硬化を確認した後にグラウトを行っていることが確認できる。(共3-25)		□	□	□	□
床版工	コンクリート床版の施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	鋼橋上部工チエックシートにおける『鋼橋架設』のプロセス確認の結果に問題ないことが確認できる。		□	□	□	□
橋梁付属物工	橋梁用高欄工の施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	鋼橋上部工チエックシートにおける『床版工』のプロセス確認の結果に問題ないことが確認できる。		□	□	□	□
			橋梁上部工の支間の支保工をゆるめた後で、施工を行っていることが確認できる。(共10-39)		□	□	□	□

施工状況確認シート						
工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		
施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄	下段 : コメント
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>
	基準点の設置および掘削進行に伴う測点の設置は適切であることが確認できる。	施工前	施工前	工事着手前に測量を行い、両坑口間に基準点との相互関係を確認の上、坑口付近に中心線及び施工面の基準となる基準点を設置している。(共10-56)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	ズリの処分計画は適切であることが確認できる。	施工時	施工時	測点をトンネルの掘削進行に伴って工事中に移動しないよう坑内に測点を設置しており、また、掘削進行に伴い坑外の基準点から検測を行っていることが確認できる。(共10-56)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	発破後の地山のゆるみを排除していることが確認できる。	施工時	施工時	トンネル掘削によって生じたずりを、設計図書または監督員の指示に従い処理している。(共10-58)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
掘削	所要の内空断面が確保されていることが確認できる。	施工時	施工時	爆破を行った後のトンネル掘削面のゆるみだ部分や浮石を除去して施工していることが確認できる。(共10-57)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	インバートの掘削形状が適切であることが確認できる。	施工時	施工時	設計図書に示された設計断面が確保されていることが確認できる。(共10-58)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。	施工時	施工時	受注者は、インバートの施工にあたり設計図書に示す掘削線を越えて掘りすぎないように注意し、掘りすぎしていることが確認できる。(共10-63)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	坑内観察・計測管理	施工時	施工時	設計図書による坑内観察調査等を行っており、計測は技術的知識、経験を有する現場責任者により行われていることが確認できる。(共10-56)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		施工時	施工時	計測記録を整備保管し、監督員の請求があつた場合は、速やかに提示していることが確認できる。(共10-56)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :			工期 :			年 月 日 ~ 年 月					
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄	下段 : コメント	備考				
坑内観察・ 計測管理	計測管理を日々行つており、その結果に基づいた施工を行つて基づいたことが確認できる。	施工時	地山条件に応じて計測Bが必要と判断された場合は、設計図書に関する監督職員と協議し、計測が技術的知識、経験を有する現場責任者により行われていることが確認できる。(共10-56)		<input type="checkbox"/>						
		施工時	施工中の地質、湧水、その他の自然現象、支保工覆工の変状の有無を観察するとともに、その記録を整備していることが確認できる。(共10-56)		<input type="checkbox"/>						
		施工時	設計図書における岩区分(支保パターン含む)の境界を確認し、監督職員の確認を受けていることが確認できる。(共10-58)		<input type="checkbox"/>						
		施工時	設計図書に示された岩の分類の境界が現地の状況と一致しない場合は、監督員と協議していることが確認できる。(共10-58)		<input type="checkbox"/>						
	支保工受入 材料受入	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 吹付コンクリートの仕様を満足することができる。(共10-58)	受入時	工事に使用した材料の品質を証明する、試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質証明書を受注者の責任において整備、保管していることが確認できる。(共2-3)		<input type="checkbox"/>					
			受入時	ロックボルトの種別、規格は、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(共10-58)		<input type="checkbox"/>					
			受入時	吹付コンクリートの配合は、設計図書の仕様を満足することができる。(共10-58)		<input type="checkbox"/>					
			受入時	鋼製支保工に使用する鋼材の種類を、SS400材相当品以上のものとしており、鋼材の材質は、JIS G3101(一般構造用圧延鋼材)または、JIS G3106(溶接構造用圧延鋼材)の規格のものを使用していることが確認できる。(共10-58)		<input type="checkbox"/>					

施工状況確認シート						
工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		
施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄	下段 : コメント
支保工 材料受入	支保工鋼材の規格は設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	受入時	金網工に使用する材料は、JIS G 3551（溶接金網）で150mm×150mm×径5mmの規格を満足していることが確認できる。（共10-59）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	防水材の規格が適切であることが確認できる。	受入時	防水工に使用する防水シートは、設計図書の規格を満足していることが確認できる。（共10-61）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	支保工の設置状況が適切であることが確認できる。	受入時	防水工に使用する透水性緩衝材は、設計図書の規格を満足していることが確認できる。（共10-61）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	鋼製支保工の建て込み方法は適切であることが確認できる。	施工時	受注者は、支保バーターンについて、設計図書によらなければならぬ。ただし、地山条件により、これにより難い場合は、設計図書に關して監督員と協議していることが確認できる。（共10-58）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
支保工	金網を設置する場合、吹付けコンクリート第1層の施工後に、吹付けコンクリートに定着するよう配し、吹付け作業によって移動、振動等が起こらないよう固定していることが確認できる。（共10-60）	施工時	鋼製支保工の転倒を防止のため、設計図書に示されたつなぎ材を設け締付けていることが確認できる。（共10-60）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	金網の継ぎ目を15cm以上重ね合わせていることが確認できる。	施工時	金網を設置する場合は、吹付けコンクリート第1層の施工後に、吹付けコンクリート完了後、すみやかに掘進サイクル毎に削孔し、ボルト挿入前にくり粉が残らないよう清掃しロックボルトを挿入していることが確認できる。（共10-59）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
金網設置	ロックボルトの設置時期、設置方法が適切であることが確認できる。	施工時	金網の設置において、金網の継目は15cm（一日以上）以上重ね合わせていることが確認できる。（共10-60）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員		
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考
ロックボルト	ロックボルトの定着長が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	設計図書に示す定着長が得られるように、ロックボルトを施工していることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
	地山条件やせん孔の状態、湧水状況により、設計図書に示す定着長が得られない場合について監督員と協議していることが確認できる。(共10-59)	施工時	地山条件やせん孔の状態、湧水状況により、設計図書に示す定着長が得られない場合について監督員と協議していることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
	受注者は、ロックボルトの定着後、ペアリングプレートが裾削面や吹付けコンクリート面に密着するように、スパンナやバイプレンチを用いてナットで緊結していることが確認できる。(共10-59)	施工時	受注者は、ロックボルトの定着後、ペアリングプレートが裾削面や吹付けコンクリート面に密着するように、スパンナやバイプレンチを用いてナットで緊結していることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
	ロックボルトを定着する場合の定着方式は、全面接着方式とし、定着材は、ドライモルタルとしていることが確認できる。なお、地山の岩質・地質・砕石の状態等からこれに監督員と協議していることが確認できる。(共10-59)	施工時	ロックボルトを定着する場合の定着方式は、全面接着方式とし、定着材は、ドライモルタルとしていることが確認できる。なお、地山の岩質・地質・砕石の状態等からこれに監督員と協議していることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
	地山との定着方法は適切であることが確認できる。	施工時	地山との定着方法は適切であることが確認できる。	<input type="checkbox"/>				
	ロックボルトの使用前に、有害な錆、油その他異物が残らないよう清掃してから使用していることが確認できる。(共10-60)	施工時	ロックボルトの使用前に、有害な錆、油その他異物が残らないよう清掃してから使用していることが確認できる。(共10-60)	<input type="checkbox"/>				
	コンクリートの配合試験及び試験練りを行つており、コンクリートの品質（強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制剤等）が確認できる。(吹付コンクリート) (覆工コンクリート) (インバートコンクリート)	打設前	打設前は、工場が発行するレディーミクストコンクリート配合計画書及びレディーミクストコンクリート納入書を整備及び保管していることが確認できる。(共1-49)	<input type="checkbox"/>				
	コンクリート（吹付）(覆工)(インバート)	打設前	JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを用いる場合は、工場が発行するレディーミクストコンクリート配合計画書及びレディーミクストコンクリート納入書を整備及び保管していることが確認できる。(共1-49)	<input type="checkbox"/>				
	(吹付コンクリート) (覆工コンクリート) (インバートコンクリート)	打設前	すべてに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表について監督員の確認を得ていることが確認できる。(共1-52)	<input type="checkbox"/>				
	(吹付コンクリート) (覆工コンクリート) (インバートコンクリート)	打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合（単位水量及び水セメント比）等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督員の確認を得ていることが確認できる。(共1-49)	<input type="checkbox"/>				

施工状況確認シート

工事名 :	工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日		
主任監督員			

15. トンネル工 (NATM)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目			上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
			試験基準・適用					
コンクリート (吹付) (覆工) (仰込、ハート)	コンクリートの配合試験及び試験練りを行つており、コンクリートの品質（強度、W/C、最大骨材粒径、塙化物量、単位水量、アーリ骨材反応抑制対策等）が確認できる。	打設前	水セメント比 (W/C) が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塙化物量 (C L-) が、許容塙化物量0.30kg/m ³ 以下となつていることなどが確認できる。（共1-47・52）	□	□	□	□	□
	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308 (レディミックスコンクリート)により実施しているか、生産者等に検査のための試験を行なう場合は、受注者がその試験に臨場していることを確認できる。（共1-52）	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308 (レディミックスコンクリート)により実施しているか、生産者等に検査のための試験を行なう場合は、受注者がその試験に臨場していることを確認できる。（共1-52）	□	□	□	□	□
	レディミックスコンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれ、規格値を満足していることが確認できる。（管3-12～19）	打設前	レディミックスコンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれ、規格値を満足していることが確認できる。（管3-12～19）	□	□	□	□	□
塙化物總量規制 (管3-12)	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	打設後	小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 小規模工種で1工種当たりの総使用量が350m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 小規模工種で1工種当たりの総使用量が350m ³ 以上の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。	□	□	□	□	□
	コンクリートの打設が午前と午後に分かれ、午前1回コントロール打設前に行なうものとすれども、午前に1回コントロール打設前に行なう場合、その後の試験結果が下限値以下の場合には、午前に試験結果の1/2以下の場合には、午前に試験結果を下限値以下とみなすことができる。（1試験の測定回数は3回で打設が完了する場合は、1回でもよい。）	打設後	コンクリートの打設が午前と午後に分かれ、午前1回コントロール打設前に行なうものとすれども、午前に1回コントロール打設前に行なう場合、その後の試験結果が下限値以下の場合には、午前に試験結果の1/2以下の場合には、午前に試験結果を下限値以下とみなすことができる。（1試験の測定回数は3回で打設が完了する場合は、1回でもよい。）	□	□	□	□	□
	単位水量測定 (管3-14)	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。合は165kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
コンクリート (吹付)	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
コンクリート (吹付)	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
コンクリート (吹付)	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□
	コンクリートの受け検査は以下の項目について行なわれる。 ・小規模工種で1工種当たりの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、または(デバイガ)スランプ・品質證明書等のみとすることができる。 ・骨材に海水を使用する場合は、「海砂の塙化物含有有効試験方法」(JSC-W-502-2013, 503-2007)又は設計仕様書の規定により行なう。 ・用心鉄筋等を有さない無筋補強物の場合は省略できる	打設後	方程式による単位水量の算出結果は17.5kg/m ³ 未満の場合は17.5kg/m ³ 、40mm寸法が20～25mmの場合は15kg/m ³ を基本とする。	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員		
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考
		施工時	テストハンマーによる強度推定調査を実施する場合は、事前に段階確認に係わる報告書を所定の様式により監督職員に提出していることが確認できる。(必携33-1)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法(JSCE-0504)による強度測定調査を、目地間を1構造物の単位(100mを超えるトンネルは、100mを超えた箇所は、30m程度毎に1箇所を調査単位)として実施していることが確認できる。(管3-20、21)	<input type="checkbox"/>				
	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	テストハンマーによる強度推定調査の結果、所定の強度が得られない場合には、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施していくことが確認できる。(管3-20、21)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	再調査の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1カ所の強度が設計強度の85%を下回った場合に、JIS A1107により、現位置のコアを採取し、圧縮強度試験を実施していることが確認できる。(管3-20、21)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	吹付けコンクリートを浮石等を取り除いた後に、吹付けコンクリートと地山が密着するようすみやかに一層の厚さが15cm以下で施工していることが確認できる。(ただし、坑口部及び山分類に応じた標準的な組合せの支保構造の場合。)(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
	コンクリート(吹付) (覆工) (イハ、ート)	施工時	吹付けコンクリートの施工にあたって、浮き石等を除いた後に、吹付けコンクリートの一層の厚さが15cm以下で地山とが密着するよう施工していることが確認できる。	<input type="checkbox"/>				
		施工時	吹付けコンクリートの施工に直角に保ち、ノズルと吹付け面との距離及び衝突速度が適正になるように、かつ、材料の閉塞を生じないよう行われていることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	吹付けコンクリートの仕上がり面が平滑に行っている。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				
		施工時	鋼製支保工がある場合には、吹付けコンクリートと鋼製支保工とが一体になるよう吹付けしており、また、鋼製支保工の背面に空隙が残らないように吹付けていることが確認できる。(共10-59)	<input type="checkbox"/>				

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員	
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
コンクリート (吹付) (覆工) (インバート)	吹付けコンクリートを打継ぎする場合、吹付完了面を清掃していることが確認できる。	施工時	吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃してあることが確認できる。 (共I-59)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	練湿せから打ち終わるまでの時間は、原則として外気温が25°Cを超える場合で1.5時間、25°C以下の場合は2時間で2時間を超えないことが確認できる。 (共I-56)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が35°Cを超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリート温度は35°C以下であることができる。 (共I-66)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4°C以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20°Cの範囲に保つていることが確認できる。 (共I-67)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設方法及び締固め方などが、定められていることを満足していることが確認できる。	施工時	シューート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。 (共I-57)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、パイプレーテア間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。 (共I-122)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 (共I-65)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
鉄筋・型枠 (覆工) (インバート)	鉄筋の貯蔵方法が適切であることが確認できる。	施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていることが確認できる。 (共I-61)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

主任監督員

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
-------	------	-------------

15. トンネル工 (NATM)

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄				下段 : コメント	備考
				□	□	□	□		
	鉄筋の加工方法が適切であることが確認できる。	施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する時は、既往の実績を現地において試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認) (共1-e1)	□	□	□	□	□	□
	鉄筋組立前及び組立後の清掃状況が適切に行われていることか確認できる。	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き鏽、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないことが確認できる。(共1-e2・63)	□	□	□	□	□	□
鉄筋・型枠 (覆工、イハート)	覆工コンクリートの鉄筋は堅固に組み立てられており、防水シートを損傷させないことが確認できる。	施工時	覆工コンクリートを補強するための鉄筋の施工は、防水工を破損しないよう取り付けるとともに、所定のかぶりを確保し、自重や打ち込まれたコンクリートの圧力により変しないよう堅固に固定していることが確認できる。(共10-62)	□	□	□	□	□	□
	鉄筋の固定方法が適切であることが確認できる。	施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm 以上の丸みし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。(共1-62)	□	□	□	□	□	□
	使用する型枠材は適切であることが確認できる。	施工時	型枠は、メタルフォームまたはスキンプレートを使用した鋼製移動式のものを使用していることが確認できる。(共10-62)	□	□	□	□	□	□
	型枠の脱型時期は適切であることが確認できる。	施工時	打込んだコンクリートが必要な強度に達するまで型枠を設置していることが確認できる。(共1-65)	□	□	□	□	□	□
インバート工	インバートコンクリートの打設方法は適切であることが確認できる。	施工時	インバート部を掘削した後、すみやかにインバートコンクリートを打込んでいることが確認できる。(共10-63)	□	□	□	□	□	□
	インバートの埋め戻し方法は適切であることが確認できる。	施工時	インバートコンクリートの縦方向打継目を設ける場合は、中央部に 1 カ所としていることが確認できる。(共10-63)	□	□	□	□	□	□
	インバート盛土の締固め度を施工管理基準に基づき管理していることが確認できる。	施工時	インバート盛土の締固め度を施工管理基準(共10-63)に基づき管理していることが確認できる。	□	□	□	□	□	□

施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
防水工 覆工	防水工に防水シートを使用する場合は、モルタル等の突起物等で防護対策を行っていることが確認できる。(共10-62)	施工時	防水工に止水シートを使用する場合には、止水シートが破れないよう、ロックボルト等でモルタル等の突起物等で防護対策を行っていることが確認できる。	施工時	防水工に止水シートを使用する場合には、止水シートが破れないよう、ロックボルト等でモルタル等の突起物等で防護対策を行っていることが確認できる。(共10-62)	施工時	防水工に止水シートを使用する場合には、止水シートが破れないよう、ロックボルト等でモルタル等の突起物等で防護対策を行っていることが確認できる。(共10-62)	□	□	□	□	□	□
	覆工の施工時期は適切であることが確認できる。	施工前	覆工の施工時期について、地山、支保工の挙動等を考慮し、決定していることが確認できる。(覆工開始の判定要領を施工計画書に記載するとともに判断資料を整備保管している) (共10-63)	施工前	覆工の施工時期について、地山、支保工の挙動等を考慮し、決定していることが確認できる。(覆工開始の判定要領を施工計画書に記載するとともに判断資料を整備保管している) (共10-63)	施工時	覆工のコンクリートの打設時期を計測(A)の結果に基づき、設計図書に記載するところが確認できる。	□	□	□	□	□	□
	覆工厚の刻示は必要な箇所に設けられている。	施工時	覆工厚の変化箇所には設計覆工厚を刻示していることが確認できる。(取付位置は起点より終点に向かって左側)。 (共10-60)	施工前	覆工厚の変化箇所には設計覆工厚を刻示していることが確認できる。(取付位置は起点より終点に向かって左側)。 (共10-60)	施工時	裏込注入工は覆工コンクリート打設後、早い時期に実施していることが確認できる。(共10-106)	□	□	□	□	□	□
	裏込注入の施工時期は適切であることが確認できる。	施工時	注入材、注入圧力、注入の終了時期は設計図書どおりであり、監督員の承諾を得ていることが確認できる。(共10-106)	施工時	注入材、注入圧力、注入の終了時期は設計図書どおりであり、監督員の承諾を得ていることが確認できる。(共10-106)	施工時	裏込め注入の施工にあたって、綻断方向の施工順序としては埋設注入管のうち標高の低い側より、遂次高い方へ片押しで作業していることが確認できる。(共10-106)	□	□	□	□	□	□
	裏込注入工の施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	シネル横断面の断面部には、下部から上部へ作業を進めており、上部の注入孔は栓を開けて空気を排出していることが確認できる。(共10-106)	施工時	シネル横断面の断面部には、下部から上部へ作業を進めており、上部の注入孔は栓を開けて空気を排出していることが確認できる。(共10-106)	施工時	注入孔は硬練りモルタルにより充填し、丁寧に仕上げていることが確認できる。(共10-107)	□	□	□	□	□	□